

中小企業伴走支援フォーラム2025 in KANSAI

趣旨説明

2025年3月10日

近畿経済産業局

業務横断プロジェクトチーム

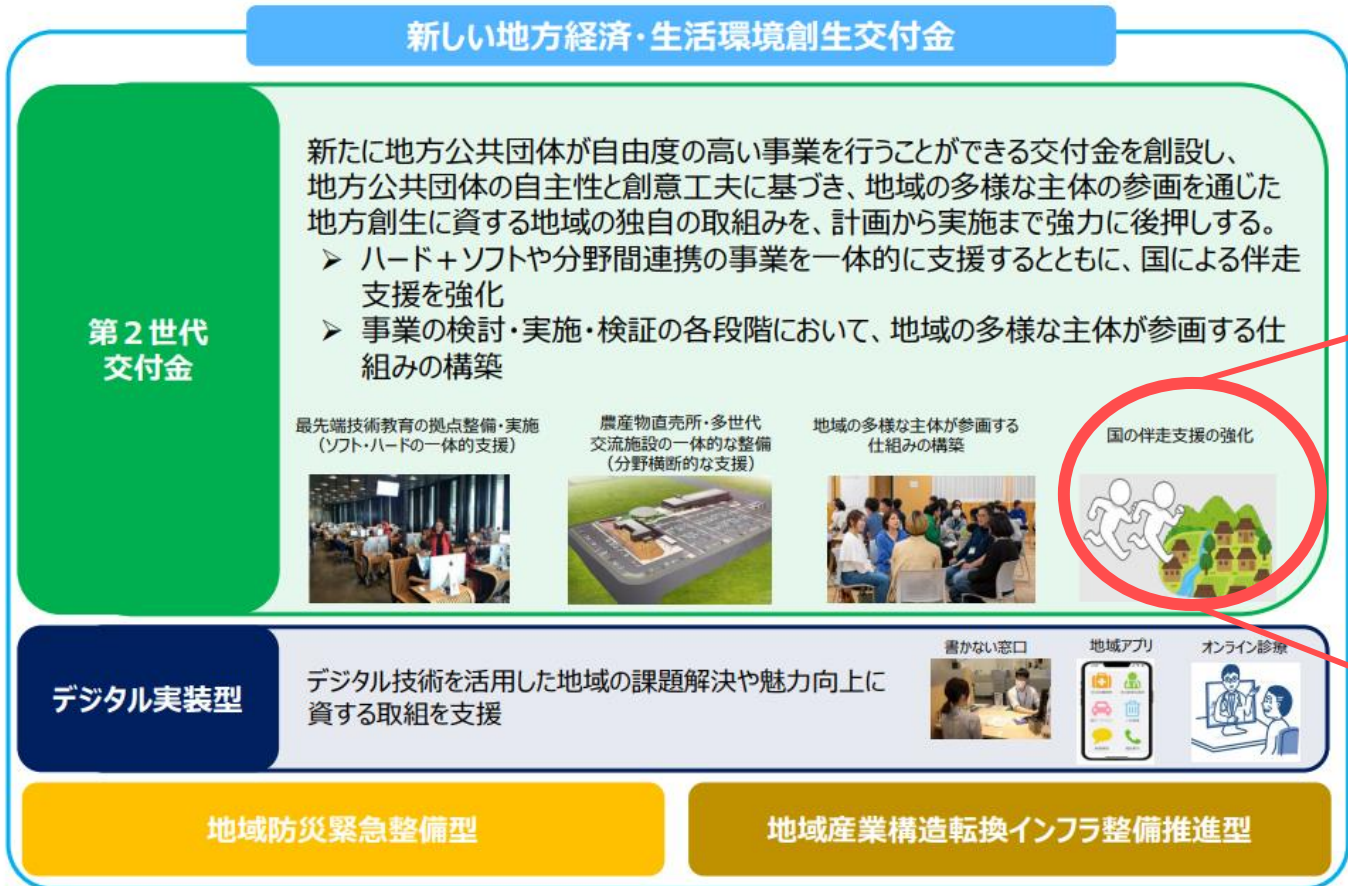
本日の主題

「伴走支援」が生み出す価値とは何か。

近年の伴走支援の流れ

昨今、様々な支援シーンで、国の「伴走支援」の重要性が強調されている。

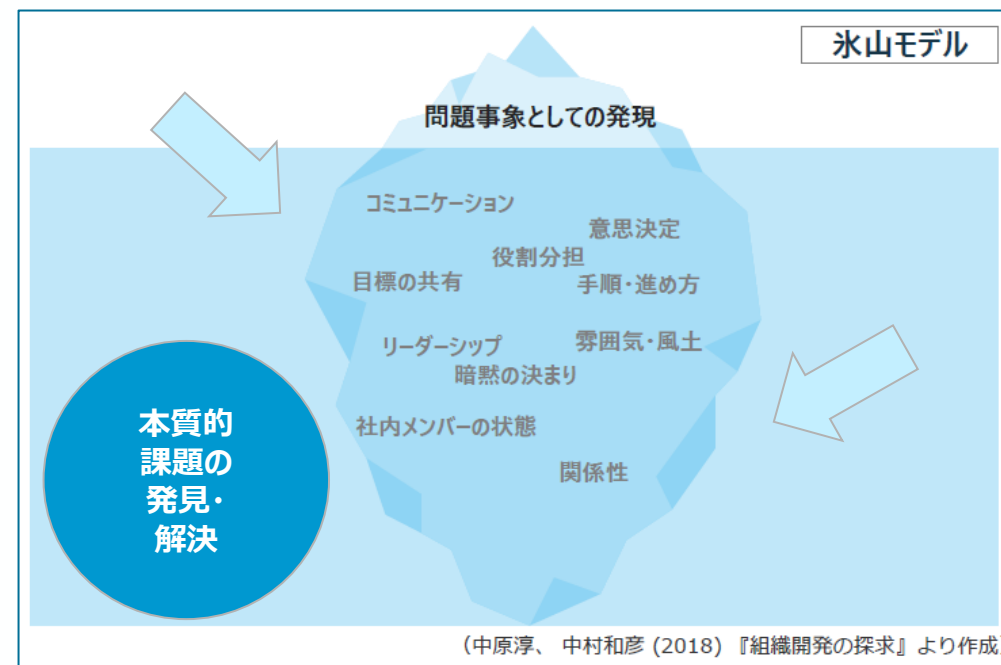
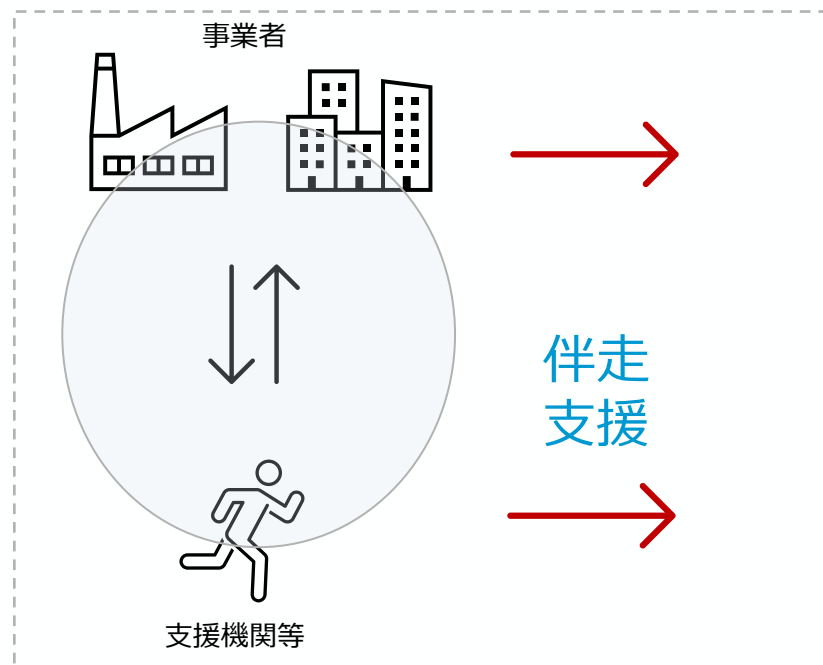
「新しい地方経済・生活環境創生交付金」の創設



(出典) 「新しい地方経済・生活環境創生交付金について」 内閣官房 新しい地方経済・生活環境創生本部事務局、内閣府 地方創生推進事務局・地方創生推進室 (令和6年11月29日)

近年の伴走支援の流れ

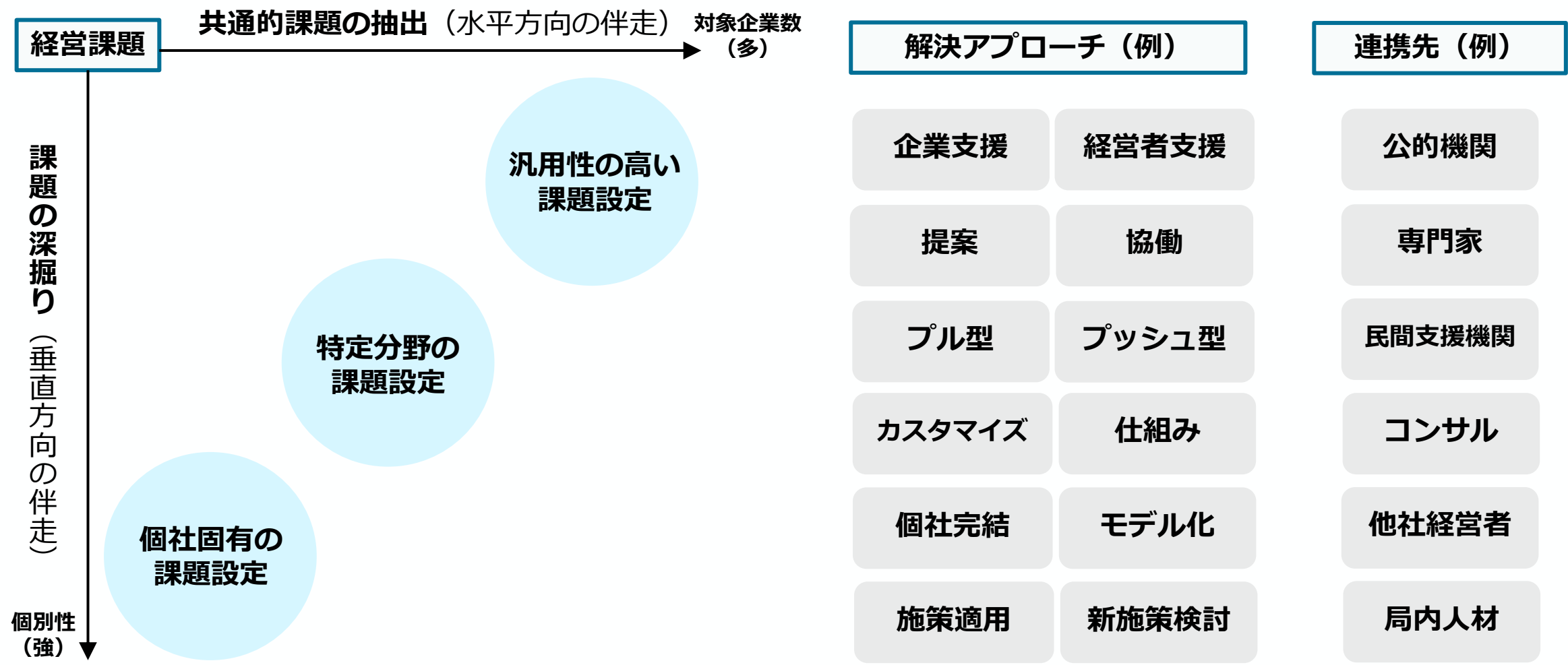
中小企業庁は、中小企業に対する「経営力再構築伴走支援」を推進してきた。



他方、地域の支援機関は、中小企業に対する「伴走支援」を様々な形で実施しており、効果的な手法、取組の意義、成果の考え方、組織における位置づけなど、その難しさにも直面。

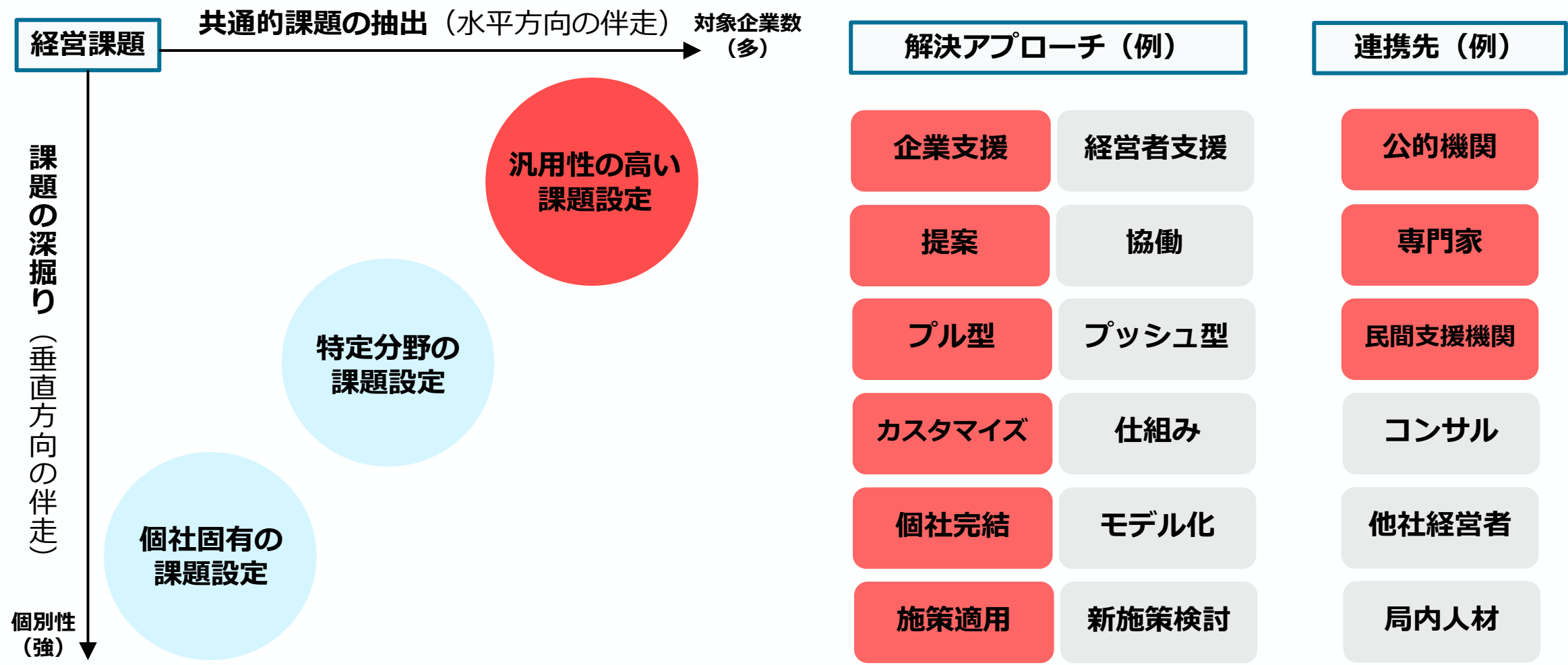
近畿経済産業局の伴走支援の手法

伴走支援の取組を、経営課題、経営課題、解決アプローチ、連携先に分解して整理。



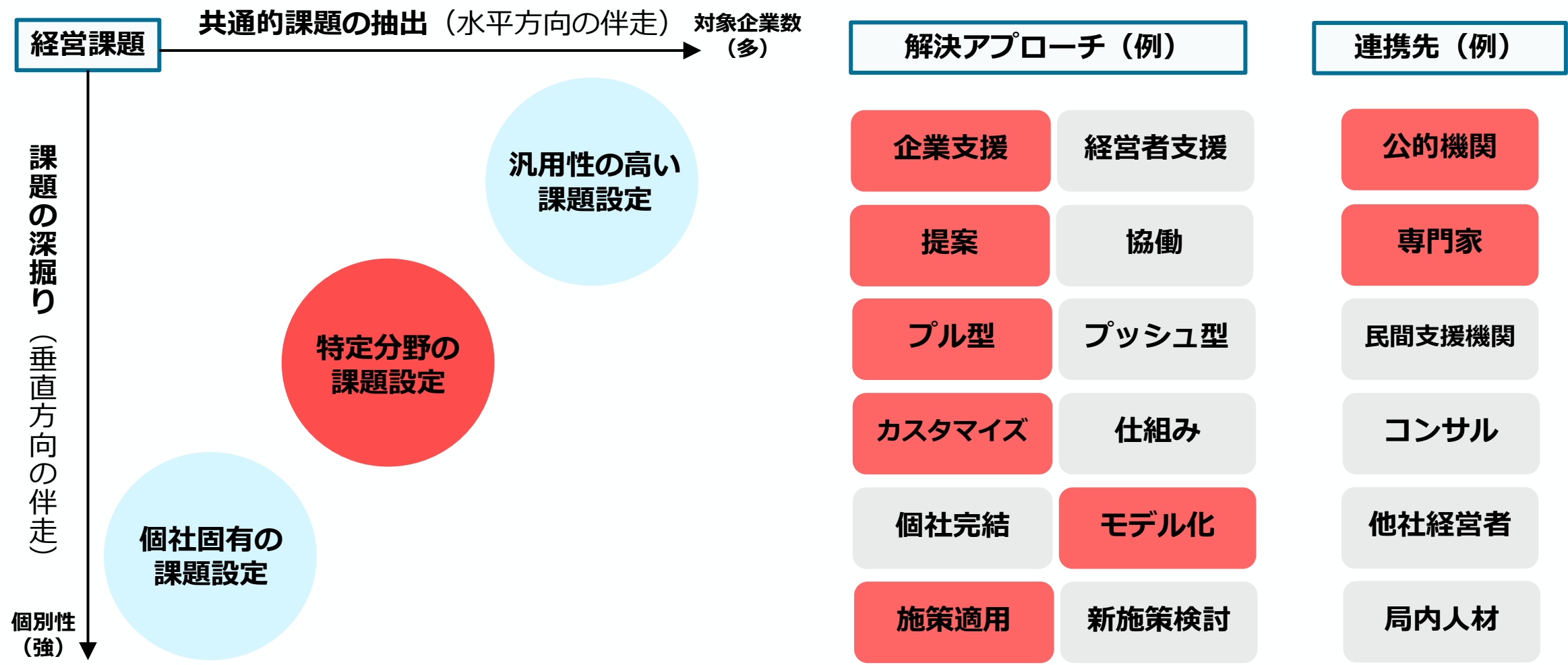
具体例① 中小企業課による「よろず支援拠点」を通じた支援

中小企業の経営相談窓口を設置し、様々な分野の専門家が対応する。



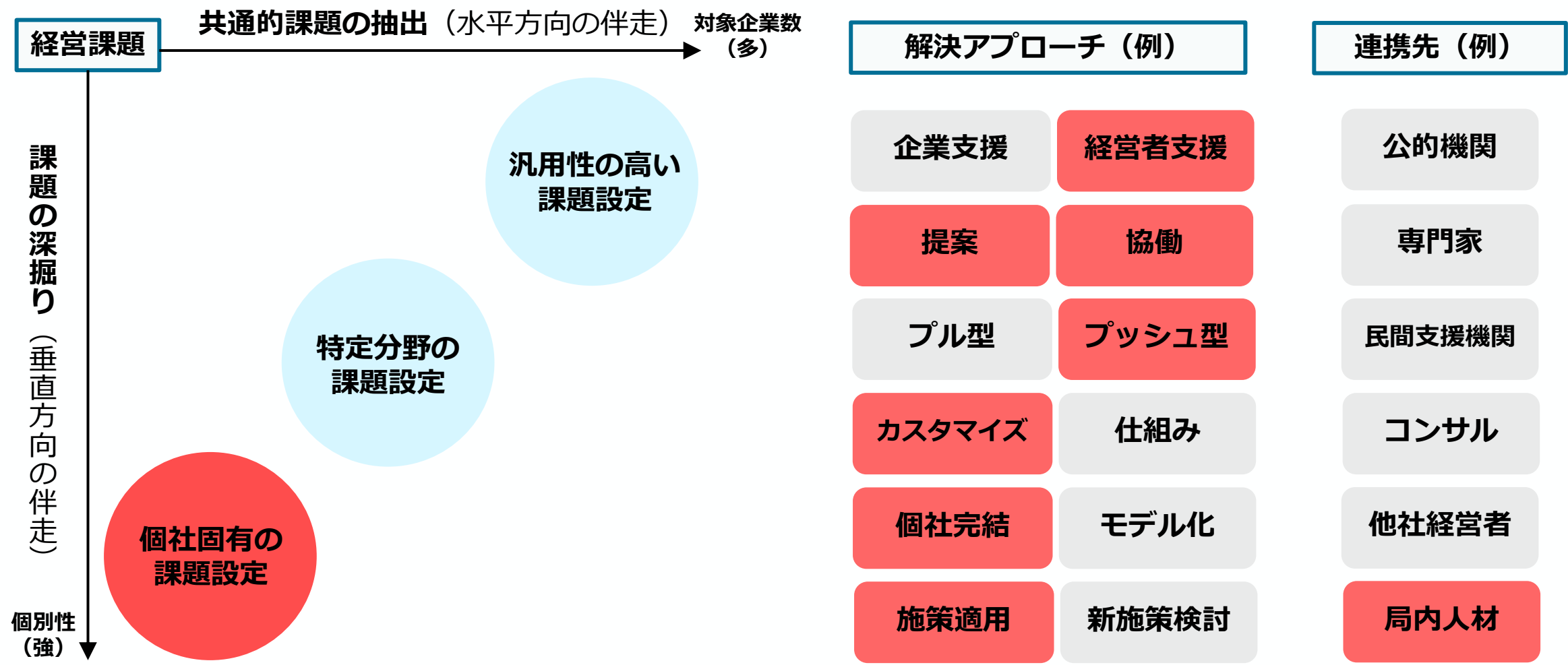
具体例② 知的財産室による産業財産権に関する支援

知的財産関連の課題を有する企業を募集し、産業財産権の取得や活用を通じた支援を実施。



具体例③ 局横断メンバーによる東大阪企業への伴走支援

当局職員が、東大阪の中小企業の経営者に対して実験的に実施。（9社に約1年半で計70回訪問）



近畿経済産業局の伴走支援のコアバリュー



価値

組織

強み	留意点
① 安心感 ：中立な立場として話をしてくれやすい ② 専門性 ：政策トレンドや特定施策の話題を提供できる ③ 蓄積 ：蓄積した企業支援情報やノウハウを参照できる	①“お客様対応”をされがちで、信頼感を得られるかは別問題 ②企業の問題意識にマッチしないと一方的な施策営業になる ③型通りのコミュニケーションや形式的な継続訪問は逆効果



強み	留意点
① 支援NW ：官民間問わず様々な組織と連携しやすい ② 地域枠組 ：地域における支援の枠組構築を主導しやすい ③ 政策論 ：既存施策適用や新施策にかかる議論ができる	①“たらい回し”となり、支援の効果が出るかは別問題 ②形式的で実質的に機能しない枠組みに陥りやすい ③施策あてはめにこだわると相手ニーズにマッチしない可能性



職員

個性
① コミュニケーション力 （例：誠実に聞く姿勢、話の整理・要約） ② 話題提供力 （例：話題の引出し数、類似企業事例、施策背景） ③ リアクション力 （例：丁寧な返答、リサーチ、提案） ※その他：企業との相性合わせ、情熱と理性の使い分け

個性
① コミュニケーション力 （例：誠実に話す姿勢、話の明快さ） ② 具体化力 （例：取組提案、取組設計、道筋の提示） ③ アクション力 （例：提案の実行、巻き込み、ファシリテーション） ※その他：期待値と支援実態のギャップ管理、企業と一緒に悩む

近畿経済産業局の伴走支援の捉え方

- 伴走支援は、企業支援の方法論であるとともに、究極の現場目線の政策論。
- 伴走支援の方法に「正解はない」と議論の深掘りを諦めるのではなく、「正解は複数ある」との立場で、組織として常に新たな伴走支援手法を学び、受け入れ、チャレンジする。

近畿局は、企業の本質的課題に向き合い対応するため、組織力と職員の個性を融合した様々な伴走支援活動を実践し、企業と共に成長しながら、新たな価値創造に挑戦する。

伴走支援の成果をどう考えるか

事業者の満足

- 経営成績の向上、経営課題の解決、真因の明確化と課題解決策の実施
- 組織全体のマインド変化、定性面・定量面への波及
- 伴走者との信頼関係構築

伴走者の達成感

- 感謝等の直接的な手触り感
- 真因発掘、課題解決に向けた貢献（提案・協働）
- 事業者との信頼関係構築

- 地域への経済波及効果
- SDGs、持続可能性への貢献
- 定性面、定量面の良化

社会的有意性

スリーサークルの重なり
✓三方良しの伴走支援の成果

伴走支援が生み出す価値とは何か。

本日は「正解は複数ある」という立場で

議論しましょう。